

南相馬市除染研究会発足に向けて

平成23年8月8日

高橋 亨 平

原発事故により多くの人達が人生を失い絶望のどん底で苦しんでいる。この巨大な事故に対して東電・国・県・自治体、科学者は為すべき緊急事態に全く無知・無力でありおよそ科学立国としての面子を失った。

その後の対応に関しても何の連携も出来ず、被災者の被曝による健康管理に関しても、緊急を要するホールボディカウンター（全国に109台あると云われた）によるヨード検出も、尿、血液検査も何も出来なかった。方法すら知らない、飾りに過ぎなかったのである。そして多くの科学者も、講演をするだけで、何の行動をも起こさなかった。我々は出来る限りの事をするべく機関、に調査機材の搬入を訴えたが、どこからとも無く圧力がかかり、断念せざるを得なかった。何という愚かな国、政治、官僚の派閥は機能麻痺を起こした大きな原因であったことを反省すべきである。又、経済的な余裕が無かったせいもあると思うが、多くの赤貧を強いられている科学者、学会、研究機関も速やかな連携、行動が出来なかった無関心さに失望を感じた。

その様な中で底辺にある多くの人たちが、自分の仕事も犠牲にしながら、汗と泥だらけになって、共に行動してくれた人達に心から感謝したい。

我々の未来の夢と希望を託す為には、妊婦、そして子供達が絶対に安全に生活できる環境を作るべきである。我々は、5月からフィルムバッジにての計測で妊婦及び子供達たち、の線量を測定してきた。そしてその中に高い線量を示す人達の、自宅を訪問し生活指導を行なって来た。勤務先、自宅、寝る場所、リビング等を全て測定し生活指導をした。年間3.5mSvを基準とし（自然界の2倍+0.5、勿論セシウムの排泄の早さも考慮にいれ）、6月の集計で正確な数字が出るようになり、生活指導だけでは約3割の人たちは解決できないとの結論に達した。そこで除染活動に協力を要請した。その中での討論で、これは後世にデータを残し学術的な側面もあり、除染をする前に綿密なる線量の計測を何度も計り精密な図面を作成した。測量チームが実践の場で指示を出し、高いところは特に念入りに除染して何度も検証した。そして作業終了後には検証を緻密に行った。勿論、出たデータに関しては、反省会を行ないその中で、色々な意見が噴出した。その後の経過に参考にした。しかし、この様な作業も2回目のプランで挫折した。大きな保育園に対して2日かかりで素晴らしい測量データを出し、高次で世界に通用する様なデータを完成させたのには私も驚いた。サードウエーブという世界を又にかけたチームが、いつも快く指

導を無償で引き受けてくれた為で感謝に堪えない。測量チームは既にプロに負けないくらい成長していた。私は再び、国、県、自自体に連絡し予算がでないかどうか問い合わせた。しかし何処も断られた。やはり日本はこんないい加減な国だったのだ。

我々は8月8日除染研究会を発足した。皆でこれからの事は反省会、発表会を重ねながら、セシウムは決して怖くない事を地道な行動を通して証明していきたい。セシウムの性質から、空間線量0.1のプレハブ小屋も実験したい。絶対可能であると信じている。皆貧乏で孤独だ。ありえないと思うが、きめ細かかない国になる事を期待したい。